

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274200219		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館白井		
所在地	千葉県白井市西白井3-14-9		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.isshin.gr.jp/g_home/chiba/shiroi.html
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	平成29年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当たり前のことを当たり前、施設の常識にとらわれずに生活の常識を営んでいけるように支援しております。利用者様からの声を参考に、外食・外出レクを企画し、季節感の感じられる機会をつくっております。また、利用者様の残存機能を維持できるように、それぞれにあった家事手伝いを行って頂く工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設で暮らす利用者がただそこで長生きをして暮らすだけでなく、会社の方針として、「やることがある。頼りにされる。居場所がある。」を先ず第一に挙げている。利用者が施設を自宅と思ってもらえるような、細かなことであるが、当たり前のことが当たり前に行われている毎日の生活が普通に営まれるように施設として注意を払っています。そのことで、利用者はモノごとをやり切ることで、すっきりとした表情となり笑顔が見られます。利用者にとっても、自分は頼りにされているのだという意識を持ってもらうように、職員一同、毎日の施設の生活で一番心掛けている事と見受けられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・施設理念を掲げ、朝礼時に唱和することで、全職員が理念を理解し意識を統一して業務に当たっています。	施設の理念「道行く人にも笑顔で挨拶」、「先手必笑・一笑懸命」、「明るく入りやすいホーム環境」の他会社の理念も朝礼時や会議の時も唱和し、一日1回利用者を笑わせるとか、一日1回掃除を行う等目標を決めて行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、地域でのイベントへ利用者様と一緒に参加し、地域との交流を図っています。	夏祭りや町会で行う敬老会に参加したり、近隣の小学校の児童が来てお茶会を実施したりしている。また、近隣の中学校の生徒が毎年9月頃2日間の職業体験実習に来ているが、他の中学校からの申し込みも有る。感想文も送ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番・高齢者110番を引き受け、地域貢献に努めています。小・中学校の職場体験を受け入れ、認知症の方でも楽しく生活できる事を理解して頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、民生委員・市役所・利用者様ご家族にご参加いただき、サービス状況の報告を行い、サービス向上に向けた意見交換を行っております。	偶数月に実施している運営推進会議では、住民代表の方や家族からインフルエンザが流行りだしてきたとか、イベント等地域の情報の提供が有り、サービス向上に生かした意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員やボランティアの方々を招き、意見交換をすることでサービスの取り組み方を伝え、協力関係を構築している。また、白井市介護保険運営協議会委員として参加することで、市町村担当者と意見交換できる環境がある。	毎月、市の介護相談員やボランティアの方々と意見交換をしている。また、市の行事に参加し市の担当者と意見交換ができる環境を築き、多くの情報が得られるよう、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を職員全員が認知しております。見守り・目配りの強化をし、身体拘束のないケアをしております。また、どのようなことが身体拘束に当たるのかを、職員に周知させています。	事務所の中に「身体拘束等に関する研修資料」が置いてあり、職員はいつでも見れる状態にしている。3か月に1回会社から講師が来て研修を行い、毎月行うケアカンファレンスの時にフィードバックし確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケアカンファレンスや日々の朝礼・夕礼等で、議題にし虐待防止を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用意し、職員にも制度の理解をしてもらえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、ご家族様に十分に納得して頂けるまで説明を行い、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、誰からでも意見が頂けるようにしています。また、日頃からご家族様と密に関わりを持つことで、ご意見ご要望は直接伝えてくださり、即解決に取り組んでいます。	玄関と2階の踊り場にそれぞれご意見箱を設置しているが、家族等の訪問時に職員から何かご意見等がありますか？と声掛けをし、日常的に家族と密に関わることで意見を直に聞きやすいようにし、問題等が生じた場合でも早期解決に努める体制が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のケアカンファレンスにマネージャーが参加し、本部と現場の意見交換ができるようにし、少しでも働きやすい環境になるよう努力している。	職員とは定期的に個別ミーティングを実施している。ADLが落ちてきているので今とは変わったやり方が良いとか、洗濯機、食器棚が壊れたので買い替えてほしい、ドアの建付けが悪いなどの意見が出てくるので、それらを反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の役割を作り、やりがいを持って業務に取り組めるような環境を作ると同時に責任を持って取り組んでいます。職員同士も協力性をもって日々の業務に当たり、職場環境良好維持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1度、社内研修を実施している。また、外部研修にも受講できるように、費用は会社負担にて受講できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的実施される、地域包括主催の勉強会に参加し、同市内の他介護保険事業者様と交流できる機会を増やしている。今後、いろいろな活動を通してサービスの質の向上を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、ご本人様・ご家族様ともに困っている事等把握に努めている。入居後も、アセスメントを行い、状態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、ご本人・ご家族様ともに困っている事等把握に努めている。また、利用者様の変化に伴い、連絡を密に取り、ご家族様の要望を踏まえて話し合いをし、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なサービスなのかを早期に見極め、話し合いを行い介護計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事、得意な事を職員全員が把握し、生活の中で利用者様にも役割を持って頂き、共に生活していると実感して頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	館でのイベントの際にはご家族様にお手紙にてお知らせをし、気軽に参加して頂ける様に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクリエーションとして、職員が付き添いをし馴染みの人や場所との関係維持に努めています。	散歩の時に近くのコンビニで買い物をしたり、職員が食材を買いに行く時に利用者と一緒にいき、敢えて利用者の家の近くを通り誘導してもらい、本人の残存能力を確かめながらドライブをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個人の個性や相性を考慮し、職員が間に入り、共に認め合い支え合えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、館でのイベント等のお誘いを 通し連絡する機会を作っています。相談や 支援に関しては最大限の協力をさせて頂い ております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人との関わりの中で、声掛けし話を傾 聴してご本人様の希望を見出し把握して いる。意思の疎通が困難な方には、家族や 関係者から情報を得、その人らしい生活が 送れるよう支援している。	本人の希望を把握する方法として、二者択一 といったどちらが良いかを選択してもらうこと で何が希望かを確認している。意思の疎通困 難な利用者には家族に状況を電話で説明し 確認している。利用者は、自分の思いや意向 に応じてくれると素直に「ありがとう」という答 えが返ってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の面談でご家族様やご本人様とお話 をさせて頂いた情報をもとに、その人らしい 生活を送れる様にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を毎日記録し、現状把握を 行っております。また、申し送りノートを活用 し、より細かな部分まで把握できるように努 めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見を取り入れ、よ り良い生活が出来るように作成している。月 1回のモニタリングとアセスメントを行い、意 見やアイデアを出しながら介護計画を作成 している。状態の変化があれば、その都度 検討している。	「生活記録」や「申し送りノート」をもとに、月1 回モニタリングとアセスメントが行われ、結果 の議事録はコピーして全職員に配布され情 報の共有化が図られている。モニタリング、ア セスメントには、当然家族の協力も頂き面会 時或いは家族に変化がある場合等は都合を 聞いて来所いただき意見を聞き介護計画に 盛り込むようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入している生活記録を利用し、情報 共有をしています。変化があった際には、職 員全員にて今後の介護の検討を行っていま す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な 支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の希望に添えるような 対応・支援を心掛けている。また、当事業所 はグループホーム以外の関連施設もあるの で、利用者様の身体状況に即した対応が可 能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアさんや生活相談員を受け入れることで、外部からの情報を取り入れながら、利用者様が地域で暮らしていくことを楽しめるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、在宅診療にて診察を行っております。診察時には利用者様の細かな情報を伝え、適切な医療が受けられるようにしており、利用者様が安心して過ごせるように支援しております。	2週間に1度、在宅診療を行っている。在宅診療では、細かな情報を伝え、在宅診療以外で受診がある時は、職員が付き添い安心出来るようにケアをしており、かかりつけ医の診断書は提携医の往診時に見せ、報告もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の毎日の状態やバイタル測定で気づいた点は、看護師へ相談・申し送りし、情報の共有をし適切な看護ができるよう体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会にお伺いし、利用者様の現状把握に努めています。担当医・担当看護師と早期退院に向けての相談を行い情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明した上で、入居時の段階で、重度化・終末期の話し合いをしております。また、状態が変わった時には職員の意見も参考にし、ご家族様との話し合いの場を設ける様にしております。	入居時に、事業所で出来る事、出来ない事は具体的に説明をしている。体調の変化があれば都度、家族に報告し、必要に応じて話し合いを設け、利用者本人の気持ち、家族の希望、職員の意見を聞き、方向性を決めるようにしている。	将来、重度化が進めば、看取りを行うケースも考えられ、施設としての方針、対応策を検討することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命救急講習を受講し、的確に対応ができる様にしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災避難訓練を実施し避難方法などの災害時対応を確認しております。また、地域民生委員さんや自治会を通して地域の方々との協力体制が築ける様に努めております。	防災計画書に則って、年2回、6月と11月に防災訓練が行われている。訓練では、出火時の前提条件を決めた上で実行するようにしており、職員の担当もその時に決められている。近隣の協力に関しては、町内会の回覧板で案内を出しているが、協力体制にまで至ってはいない。	周囲が新興住宅でもあり、近隣との協力作りが完全には出来ていない。早期に体制作りをされることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格・人格を把握し、その利用者様にあった言葉かけを行い、利用者様の尊厳を大切に対応しています。	家族からの情報、日々の生活の中で利用者様の表情から読み取り、対応している。入居間もない利用者には別個に個別ノートを作って対応している。尊厳とプライバシーを確保することで、利用者からは時折「ありがとう」と明るく答えてくれることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様・職員ともに、喜怒哀楽を共感することで信頼関係を築き、一人一人の感情を出せるように支援しております。決定が難しい場合には助言等を用いて自己決定ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日のご本人様の体調や気分に合わせて声かけや、サービスの提供をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	身だしなみには、常に気遣いを持って対応しております。ご本人様に着たい服を選んで頂けるような声掛けをすることでおしゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べたい物を献立に取り入れながら、食事が楽しめるようにしております。後片付けの食器拭き等、できる範囲内で一緒に行うことで、生活感を感じて頂ける様にしています。	新聞広告などに掲載されているメニューを見て、今日はこれが食べたいと利用者から要望があれば、極力その意向に応えるようにしている。食事時には、利用者の能力に合った方法で仲間に加わって頂き、参加意識を高めている。また、職員と利用者が一緒に食事をすることで連帯感が醸し出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個人に合った食事形態・水分補給ができるように配慮しております。摂取量が誰でも把握できるように、毎日記録しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、毎食後声掛け・介助を行っております。また、週1回歯科往診があり、指導や清潔保持をおこなっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援しております。排泄意識がなくてもなるべくトイレに座って頂き、排泄できるよう支援しております。	一人一人の排泄パターンは排泄チェック表で管理されている上に、利用者がキョロキョロ、そわそわする様子を職員は見逃さず、自然な形でトイレ誘導されている。排泄管理が徹底されることで、リハビリパンツが1日1枚で足りるようにもなり、利用者の表情が明るくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の方に便秘が及ぼす原因や影響を理解し、予防に取り組んでいる。薬のみに頼るのではなく、食物繊維の多い献立にすることや、適度な運動などで改善できるようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は決めておらず、その日の希望に沿って入浴して頂いております。	入浴は基本的には、本人が入りたいという気持ちを大事にして入浴日、入浴時間等の決めはない。入浴を楽しんでもらうようにバスクリーンを使って温泉気分にも浸ってもらったり、利用者同士で楽しみながら入浴をしてもらうような配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に安眠して頂けるよう布団干しや換気を行い、休まる環境作りをしております。また、ソファやこたつを用いて休息できる環境作りをしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連携を図り、薬剤指導を2週間に1度設けております。利用者様の薬剤情報が常に把握できるように処方箋の管理を行い、服薬介助に当たっております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとの出来る事、出来ない事を見極め、役割支援を行っております。各個人の誕生日会を開催しお祝いしたり、季節ごとの行事を企画したりと、楽しみながら気分転換できるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、毎月外出レクを企画して、外の空気を感じて頂き、楽しめる様にしております。突発的な外出希望や散歩希望はもちろんですが、個別に希望があれば外出同行もおこなっております。	「外出レク企画表」が作られて、出来るだけ外に出て外気を吸ってもらうような仕組み作りがされている。外に出ると前が大通りで、バス停でバスを待つ近隣の人への挨拶、下校時の小学生に声を掛けて話したり、極力外部への接触が試みられており、外に出ることで利用者一人一人に明るい表情が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や残存機能に応じて対応しております。管理が難しい方でも、買い物の支払いのみを行って頂ける様に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があった際には自由に電話を使用して頂いております。番号が押せない場合等、職員がお手伝いをさせて頂きながら楽しまれております。手紙のやり取りは今後できるように支援して行きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節に合った飾り付けを心掛け、四季を感じて頂ける様にしております。利用者様が思い思いの場所で過ごせる空間作りをしております。	一日を過ごす共有スペースであるホールは広く、利用者が自由に動き回れる空間となっている。この広い空間を利用して、クリスマスには利用者が参加して自分たちで飾りつけの位置を決めて作業をする光景が見られる。利用者全員が習字をしており、好きな字を書いてホールに展示もされている。施設としては、利用者の動線上には物を置かない配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル用こたつの設置などで、利用者様が生活の中で自由に使用できる環境を作っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使い慣れた家具等をお持込頂き、ご本人様らしい生活を過ごせるように工夫しております。	居室の入り口には、写真が貼られ、室内には、入居前に家庭で使っていた家具、仏壇が持ち込まれている利用者もある。又、個人の趣味である手作りの羽子板などを置いて、心地よく過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっており必要な個所には手すりを設置しており、安全に生活できるようにしております。できる事は見守りし、安全に生活できるように支援しております。		